

令和 7（2025）年度
一般選抜公立大学中期日程 試験問題

情報科学部 情報科学科

小論文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で4ページ、解答用紙は全部で1枚あります。
- 5 試験時間は60分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

問題 次の資料を読み、各設問に答えなさい。

【資料 1】

AI の著作権ルールを明確に

自然な画像や文章などを作る生成 AI（人工知能）による著作権侵害への懸念が高まっている。AI の学習目的で著作物を利用するのは問題ないが、出力した画像などを利用する場合は違反となる場合がある。どんなケースが侵害に当たるのか、政府は運用ルールを明確にすべきだ。

画像生成 AI はいくつかの製品が無償で公開され、世界中に広がった。利用者が既存の作品とよく似た画像を作り出し、制作者らの反発を招いている。米国では、開発元の英スタビリティー AI が著作権侵害などで訴えられた。

生成 AI を鍛えるためにはインターネット上の膨大なデータを学習させる必要がある。日本の著作権法では、権利者の許諾なしに取り込んでも合法だ。AI の活用を促し産業競争力を強化する観点から 2018 年に法改正された。

欧米に比べて緩いとされるが、利用段階では悪質な行為は侵害に問える。例えば、特定の制作者の作品で AI を訓練して画像を作ると、著作権侵害に当たる。既存の著作物とよく似た画像を作るよう指示した場合も違法だ。

文化庁は過去の判例や弁護士らの意見をもとに、著作権侵害に当たる事例を整理する。6 月以降、説明会を開いて周知する計画だ。内容の広報にも力を入れ、一般の利用者にも啓発してほしい。

権利者の要請に対応する企業も出てきた。米ソフト大手のアドビは著作権を持つキャラクターや画像を学習データからはずした。提供に応じた作者に対価を支払うことも検討する。作者の要請に応じて作品を学習データから除外する対応を取る開発元もある。

有料の記事や写真、著作権の切れていない小説を生成 AI の学習に使うことについては、著作権侵害うんぬんの前に契約違反にあたることがあり、注意が必要だ。

AI の活用で仕事の生産性は大幅に向上する。技術革新を阻害せず、同時に著作権者の権利にも十分配慮したルール形成、合意形成を急ぐべきだ。

出典：日本経済新聞 2023 年 5 月 26 日 社説

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK256JO0V20C23A5000000/>

【資料 2】

生成 AI は特徴を生かし上手に使おう

米オープン AI が対話型生成人工知能（AI）の「Chat（チャット）GPT」を 2022 年 11 月末に公開してからわずか 1 年余りで、生成 AI は職場や個人生活に高速で浸透した。インターネットやスマートフォンと同様、生成 AI も人間社会を大きく変えると想定すべきだろう。

生成 AI には事務作業の効率を上げるなどメリットがある半面、有害情報の氾濫や権利侵害などのリスクもある。リスクを抑制するには政府や国際社会のルール整備が肝要だ。

チャット GPT が記事を無断使用しているとして米紙ニューヨーク・タイムズがオープン AI とそ

の大株主のマイクロソフトを提訴した背景にもルール整備の遅れがある。日本でも生成 AI 時代の著作権保護は喫緊の課題だ。

一方、私たち利用者自身も生成 AI の特徴を理解し、上手に使いこなしたい。

現状の言語生成 AI には共通の得手不得手がある。得意技は流ちょうな話し言葉や文章、ソフトウェア・プログラムを作ること、つまり「作り話」だ。半面、自らが発した言葉の真偽の区別と確認は苦手であり、言葉の意味や論理の「理解」は不可能だ。

このため、ネット検索の代わりとして事実関係を調べる際、頼りにするのは危ない。事実関係が正確で論理的整合性がとれている必要がある業務文書に、AI 生成文をそのまま使うべきではない。むしろ、流れや構成がうまく整った文章の下書きやひな型を作らせるのに適している。

論文や訴状など長い文章の要約でも注意が必要だ。

米新興企業のベクタラが昨秋公開した実験では、読み込んだ文章だけを参照してその要約を作るようオープン AI やグーグル、メタなどの主要な生成 AI に指示した。すると全ての AI が、読み込んだ文章に書いていない事実関係をでっち上げることがあった。

つまり、書き下ろしでも要約でも、AI の生成文を人間がチェックしないでそのまま使うのは危ない。政府や企業、法律事務所などが文書の要約や作成に生成 AI を導入しようと動いているが、生成文には誤りが含まれることを前提に活用法を探るべきだ。

事実確認ができる生成 AI の開発も進むが、基本的に未熟な技術だ。あくまで人間を補助する道具として活用したい。

出典：日本経済新聞 2024 年 1 月 9 日 社説、

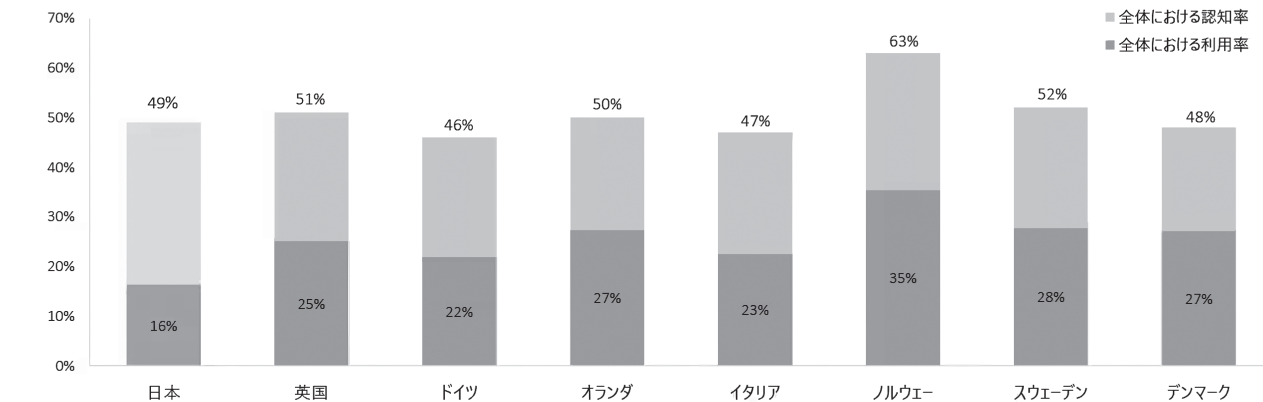
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK0543O0V00C24A1000000/>

【資料 3】

生成AIツールの認知率及び利用率

Q. 以下に挙げる生成系AIツールのうち、あなたがお存じのものはどれですか。該当するものをすべて選んでください

Q. あなたが利用したことのある生成系AIツールはどれですか。該当するものをすべて選んでください



認知率 N=日本 (2,000)、英国 (4,000)、ドイツ (2,000)、オランダ (2,000)、イタリア (2,000)、ノルウェー (999)、スウェーデン (1,995)、デンマーク (1,000)

注: 18~75歳の回答者 (オランダは18歳~70歳)

利用率 N=日本 (973)、英国 (2,059)、ドイツ (918)、オランダ (994)、イタリア (893)、ノルウェー (626)、スウェーデン (1017)、デンマーク (476)

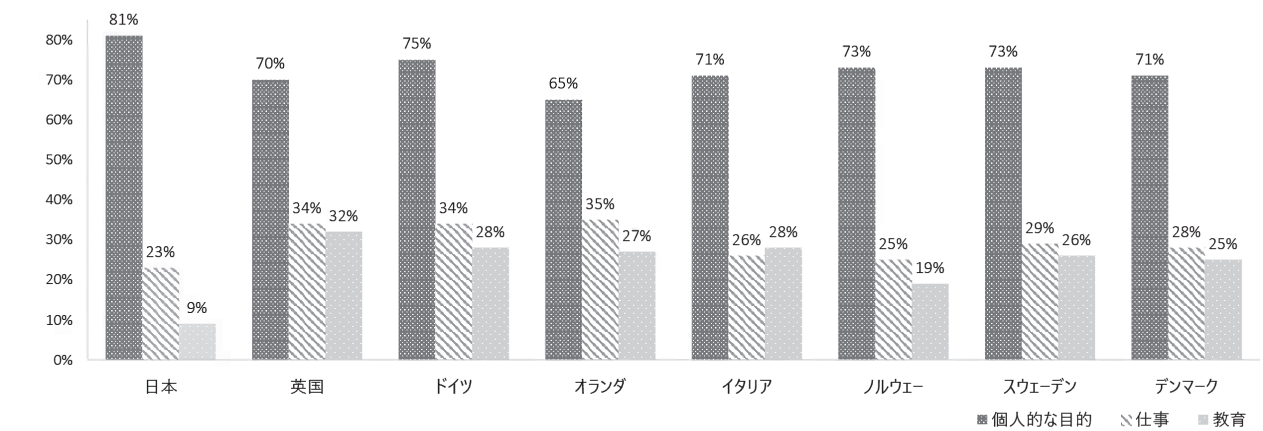
注: 生成AIを知っている18~75歳の回答者 (オランダは18歳~70歳)

出所: Digital Consumer Trends、2023年

【資料 4】

生成AIツールの利用目的

Q. 以下のうち、生成系AIを利用した目的はどれですか。該当するものをすべて選択してください



N=日本 (328)、英国 (1,005)、ドイツ (438)、オランダ (547)、イタリア (450)、ノルウェー (354)、スウェーデン (553)、デンマーク (272)

注: 生成AIを使っている18~75歳の回答者 (オランダは18歳~70歳)

出所: Digital Consumer Trends、2023年

出典: デロイトトーマツ, 調査レポート 生成 AI に対する消費者反応のグローバル比較 Digital Consumer Trends 2023

日本版, <https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology-media-and-telecommunications/articles/digital-consumer-trends-genai.html>

設問1 生成 AI を利活用する場合にどのようなことに注意すべきと考えられているか、資料1と資料2をもとに200字以内でまとめなさい。

設問2 資料3と資料4より、日本には諸外国と異なった特徴がみられる。日本の特徴について、諸外国と対比しながら200字以内で述べなさい。

設問3 すべての資料を参考に、生成 AI のさらなる利活用に向けて、今後どのような取り組みや行動が必要となってくるか、予想される社会の進展なども踏まえて、あなたの考えを400字以内で述べなさい。